

## 会場での質疑応答の記録

Q 1 :	再編の目的は何か。先生の負担軽減のためなのか、子どものためなのか。
A 1 :	子どもの数が減少していく中で、学びの質を確保するために、ある程度の人数を確保する必要がある。適正な規模にしていくために学校再編を行いたい。そこが一番の目的であり、子どもファーストで考えている。
Q 2 :	場所は具体的に決まっているのか。大東地区狙い撃ちなのか。
A 2 :	具体的な案は決まっていない。大浜中学校区で再編をやることが決まっているわけでもない。大東町時代に大浜中学校と城東中学校を1つにするという案があったことは市も承知はしている。そういう考え方も1つの案としては持っているが、教育委員会としては小中一貫教育を進めている中で、子どもたちの教育をより良い環境にするにはどうしたらよいかということを考えながら、地域の皆さんの思いもあるので、それらをうまく収める形はどういう形がよいかということで市民の皆さんの御意見を伺っている。 こういう計画を作る際は、これまでは市が一方的に計画を作ってこんな形になりました、どうですかとやってきたが、学校再編については、皆さんの意見を伺って一番良い形はどんな形かというのを一緒に考えていただきたいと思っている。
Q 3 :	一体化そのものは可能なのか。学園化とは何か。
A 3 :	一体化については全国に様々な事例がある。近隣では磐田市、浜松市等にも先進事例がある。視察にも伺って、様々なメリットがあるというお話も伺っている。 学園化は、地域の教育力を園、学校に取り込む、地域みんなで子どもを育てていく市民総ぐるみの教育を各中学校区ごとに進めていることを学園化構想と言っている。
Q 4 :	新しい体育館の利用についてどう考えているか。
A 4 :	建物の耐用年数については、国の基準では60年と言っている。60年経てばすぐにダメになるということではない。掛川市内の小中学校については地震に対する補強工事はすべて終わっている。建物が老朽化してくると設備面や使い勝手の面が非常に悪くなることから、概ね60年くらいが建替えの目安と言われている。引き続き使う場合には再整備をしないと使いにくい建物になってしまうことから、学校再編計画を考えていく中で、新しく建て替えるのがよいのか、しっかり再整備して寿命を延ばすのか見極めていく必要がある。 体育館については使える間は使うということになると思う。跡地についても地域の皆さんと考えていきたいと思っている。
Q 5 :	交通手段について、現段階での考えは。
A 5 :	スクールバス、路線バスについては現時点でも市内で使用している学校がある。規程では、小学生は4キロ以上、中学生は6キロ以上になった場合には、路線バスの場合には定期代を市が負担している、路線バスのルートから外れる場合には市でスクールバスを運行している。学校の場所が決まれば、その規程に沿って対応していくことになると思われる。
Q 6 :	今後の部活動について
A 6 :	掛川市では部活動の地域化について検討しているところである。子どものニーズに沿ったクラブが設立できるように検討を行っている。検討の状況を市のHPにも掲載しているのでご覧いただきたい。

Q 7 :	保護者の考えをもっと聞くべきとの意見が上がったが、今後そのような場を設ける予定はあるか。
A 7 :	現段階では予定はしていない。東中学区でも同じような御意見をいただいたので、今後検討していきたいと考えている。
Q 8 :	少子化対策についてどう考えているか。
A 8 :	<p>子どもの数が減らなければ学校再編の議論をする必要がないというのはもっともお話である。掛川市はコロナ前は人口は微増だが増えていた。このあたりは働く場所が多い地域なので流入者が多い。掛川市は県内でも珍しい人口増加地域だった。コロナの影響で現在は微減に転じている。子どもの数が減っていることに対して様々な手を打っている。子ども園を整備して待機児童の解消を行っている他、婚活の支援、移住の支援等様々なことをやっている。明石市について指摘があったが、明石市の施策も参考にしながらいろいろ考えていきたいと思っている。しかしながら、明石市の出生率は1.70、掛川市は1.64、そこまで大きな違いはない。掛川市は県内でも出生率が比較的高い市である。総合計画では出生率を1.80にしたいと考えている。1.80でも人口は増えないが、これは高い目標だと思っている。我々は将来的に11万人台の人口を維持していきたいと考えている。何も対策をしなければ20年後には10万人を切ると言われている。11万人台を維持することも高い目標だと言われている。減少をいかにマイルドにしていくかが重要で、それを増加に転じることはものすごく大変なことだと思う。1.8や2.0、2.1を実現するためにあと何年かかるのかということを見ると、すでに生まれている子のことを考えなければいけない。最大限、努力はした上で、現実を直視して今の数値に基づいて再編の問題は考えていかないとはいけない。</p>